

# 地域農業振興計画

1

JA京都

# JA京都の農業振興方針

2

## <基本的な考え>

- 自然災害や有害鳥獣被害等から農業を守り、組合員の生産活動に寄り添った営農指導を展開することにより、京都ブランドの強みを活かした安全・安心な農畜産物の生産振興につとめて、多様な担い手とともに持続可能な「儲かる農業」の確立をすすめます。

## <取り組みのすすめ方>

- 京野菜を中心に地域の気候や土壌に合った作物栽培をすすめ、農業生産の拡大とともに農業者所得の増大を図ります。
- JAグループ京都と一体となり京都ブランドの強化に取り組み、消費者ニーズに沿った特産物の販売につとめます。
- 販売先の開拓をすすめ、生産者と連携した積極的な販売戦略を展開します。
- 広域JAとして全国的な米の需要減退に対処しつつも、買取販売方式による有利販売を強化・拡充するとともに、契約取引による安定した販売価格の維持につとめます。
- 農畜産物直売所「たわわ朝霧」を多様な担い手の販売拠点として位置づけ「儲かる農業」の実践の場となる直売所運営につとめます。
- 農業電子図書館や営農支援システムを活用した効果的な営農指導の普及につとめます。
- 生産資材の高騰対策に取り組み生産者負担の軽減に寄与します。
- JAグループ京都や税務署等と連携してインボイス制度や税務申告等の経営サポートに取り組みます。

## <3か年販売計画と2022年度見込>

### (1) 受託販売品

(単位：千円)

種 類	2022年度見込	2022年度	2023年度	2024年度
穀 物	305,465	310,904	316,150	316,150
野 菜 類	1,569,028	1,579,455	1,587,215	1,587,215
花 卉	92,685	90,983	92,660	92,660
林 産 物	57,312	52,545	56,100	56,100
果 樹	89,687	71,000	72,000	72,000
そ の 他	49,539	41,600	41,600	41,600
営 農 部 計	2,163,716	2,146,487	2,165,725	2,165,725
農畜産物直売所計	475,000	489,350	489,500	489,500
畜産酪農部計	2,811,625	2,702,188	2,680,400	2,679,561
合 計	5,450,341	5,338,025	5,335,625	5,334,786

### (2) 買取販売品

(単位：千円)

種 類	2022年度見込	2022年度	2023年度	2024年度
米	1,624,380	1,463,400	1,463,400	1,463,400
営 農 部 計	1,624,380	1,463,400	1,463,400	1,463,400
農畜産物直売所計	225,000	220,000	220,000	220,000
合 計	1,849,380	1,683,400	1,683,400	1,683,400

※年次計画は情勢等により見直しを行う場合があります

※2022年度見込は2022年12月時点での期末予測値を記載しています

# 生産地の特色

3

■ 亀岡地域においては、消費地である京都市や大阪府に近い地勢を生かして多品目の青果物を振興し、地域内の農畜産物直売所「たわわ朝霧」への出荷奨励とともに来客数の拡大を促し、さらには、ホテル・レストラン等の外食産業への販売も増加しています。

■ 南丹地域においては、丹波くり生産の中心地として販売高1億円産地をめざした生産振興に努めるとともに、黒大豆や京みず菜等の京のブランド製品の生産拡大をすすめています。

■ 中丹地域においては、小豆等の豆類やきゅうり、伏見とうがらし等の青果物を中心とした土地利用型作物や、丹波くりの栽培をすすめています。

■ 丹後地域においては、京たんごメロンや京たんご梨等の果樹栽培や国営農地を活用した加工原料野菜、砂丘土壌に適した甘藷等の生産振興を拡大するとともに、京たんご梨の東南アジア等への輸出拡大を目指します。

亀岡地域	地形	亀岡盆地 保津川水系
	耕地面積	2,740ha
	特徴	平坦地で朝霧深い穀倉地帯
南丹地域	地形	丹波高原地 由良川水系・桂川水系の分水嶺
	耕地面積	南丹市2,710ha 京丹波町1,600ha 右京区京北479ha
	特徴	準高原地で昼夜の寒暖差に恵まれている
中丹地域	地形	丹波山地 由良川水系
	耕地面積	福知山市(全域)3,490ha
	特徴	日本海側気候
丹後地域	地形	日本海に面した地域から丹後山地の内陸地
	耕地面積	京丹後市4,710ha 宮津市721ha 与謝野町922ha 伊根町254ha
	特徴	日本海側気候

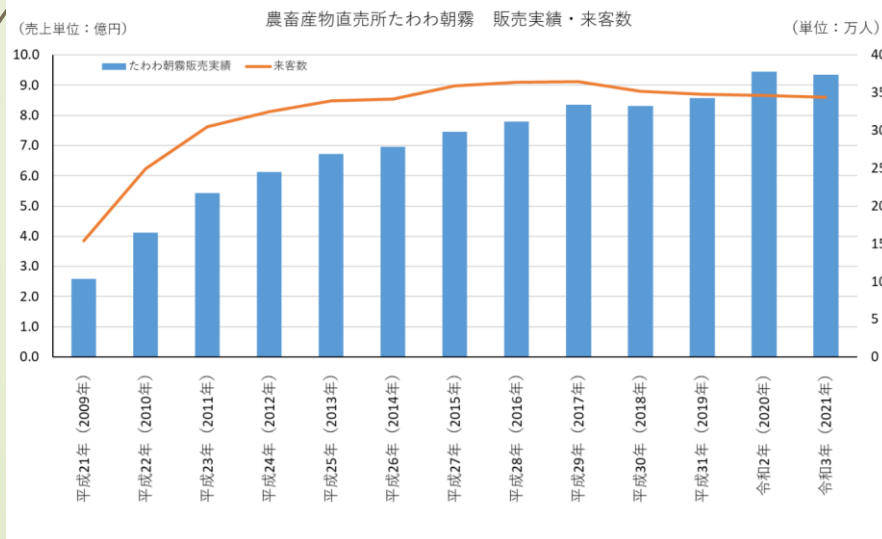
# 農畜産物直売所「たわわ朝霧」

販売金額と来客数は年々増加しており、2021年は年間約34万3千人のお客様が来店され販売金額は9億2千万円を超えました。

多様な担い手が農畜産物を出荷されており、新規農業者にとっては「儲かる農業」を実感できる身近な場となっています。

JA京都では「地域で生産された食材を、その地域で消費する」という地産地消の考えを、「たわわ朝霧」の農畜産物等を通じて、地域住民や消費者へ発信しています。

生産者部会組織とも連携して「たわわ朝霧」を拠点とした各種イベントを開催し地域特産物の地産地消と食農教育活動に取り組んでいます。



〈あなたの出荷販売をお待ちしています〉

～ たわわ朝霧 ～

安全・安心の国産農産物や地域農業の応援はいろいろですが、JA京都では「食べて応援」「買って応援」に加えて「作って応援」を支援しています。

ご自身で育てられた農産物を「たわわ朝霧」に出荷販売してみませんか？  
美味しい農産物を自分で作る喜びがあり、健康づくりにも効果的です。そして販売できた代金をもとに少しばかりの贅沢はどうでしょう？ 時期ごとのお野菜の育て方や出荷方法などJA京都がお手伝いします。丹後地域からも週2回の出荷便があり北部からも多数の方が出荷されています。

2022年		12月のイベント予定表	
<p>※ 31日は午後3時まで営業します。また年始は、1月5日(木)から営業します。来年も変わらぬご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。</p>			
日	月	火	水
<p><b>12月28～30日 歳末感謝祭を行います！</b></p>			
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	
<p><b>12/3・4 丹後産直送フェア</b> 丹後より産地直送のおいしい野菜お米・くだものを販売します。</p>		<p><b>12/17・18 冬のあったかお鍋フェア</b> 当店のお野菜・お肉・お魚を数多く入荷します。またお鍋スープをフェア特価で販売します♪</p>	
<p><b>12月16日～18日 お米Week</b> 丹後キヌヒカリをなんと・・・ 玄米1キロあたり50円引きにします ※お米の日との併用は不可となります。</p>		<p><b>12月28日～30日 歳末感謝祭</b> 各種玄米1キロあたり50円引きにします。 今年最後の特価販売となりますので是非ご来店ください♪</p>	
<p>毎週木曜日は豚肉の日 からあげ 特価日</p>	<p>毎週木曜日は豚肉の日 第1・第3木曜日 コロケ 特価日 第2・第4木曜日 ギョウザ 特価日</p>	<p>毎週金日は 鶏肉・牛乳の日 選りわけて お買い得品をご用意</p>	
<p>※アトリエ店では、28日で年内の揚げ物類の販売を終了させていただきます。</p>			





# 担い手支援

## 新規就農者・定年帰農者への支援

- ・新規就農支援事業への行政サポートをお手伝いします
- ・農畜産物直売所たわわ朝霧への出荷お手伝いします

## 次代を担う若手農業者への支援

- ・ブランド京野菜、地域品目の作付提案と営農指導を行います
- ・補助事業の情報伝達、会計・税務研修を開催します
- ・「営農支援システム」の活用をすすめます

## 集落営農組織・大規模農家への支援

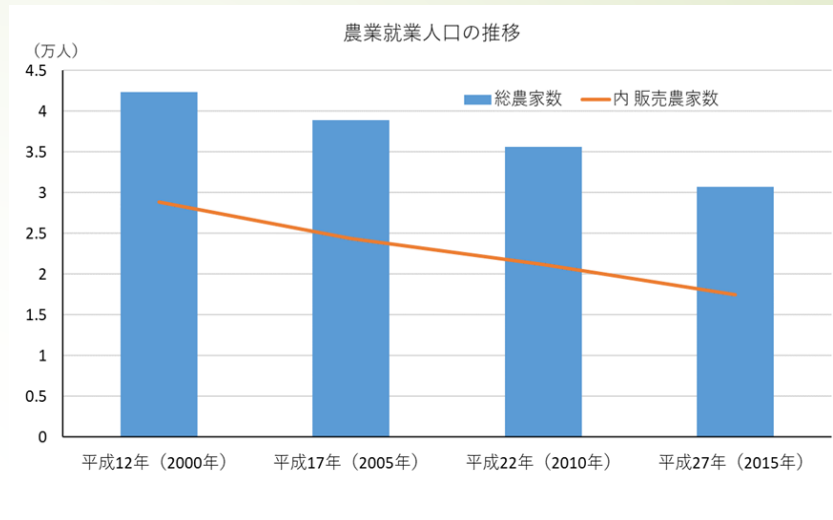
- ・組織の法人化への転換をサポートします
- ・外国人材派遣の情報提供を行っています
- ・スマート農業、省力化・効率化等の提案拡大をはかります

JA京都では、JAグループ京都や行政機関との連携により農家へのトータルサポートを行っています。

昨今の生産資材の高騰対策として予約購買をすすめ安定供給を行っています。

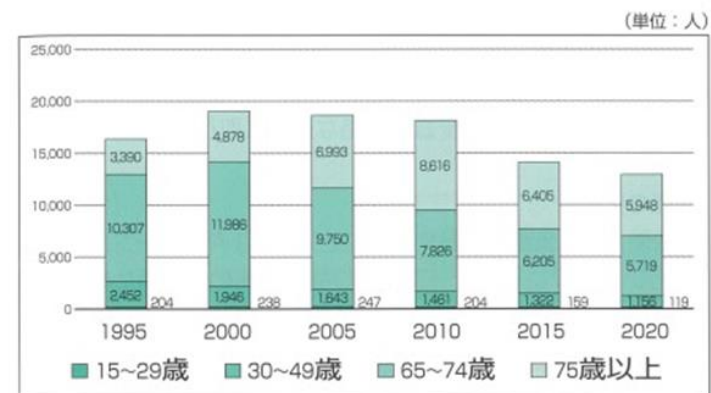
農畜産物直売所たわわ朝霧への出荷サポートにより担い手育成・新規就農支援と出荷販売をお手伝いしています。

- 京都府の農業就業人口は2000年では42,374人でしたが、2015年では30,723人と減少しています。



- 京都府の販売農家数は2000年では28,857人でしたが、高齢化による離農等により、2015年では17,485人と半減しています。

## 基幹的農業従事者数の推移



資料：JA京都中央会（農林業センサスより）

# 食の安全・安心

農産物の安全・安心を確保するため、農薬の適正使用や管理と生産履歴記帳の徹底や「京のこだわり生産認証システム」の運用に取り組んでいます。また、自主的に残留農薬検査に取り組むことにより安全・安心な農産物の徹底をはかります。

- ・農薬等の適正使用や保管における強化をすすめています
- ・生産履歴記帳の記入徹底をはかります
- ・自主的な残留農薬検査により出荷農産物の安全を担保します
- ・農業用の廃棄プラスチックや廃棄農薬の回収運動を展開しています

## 営農指導・サポート

生産課の統合再編により管轄する地域内の統一的な営農指導体制が可能となりました。支店生産課はJA経済事業の拠点として利便性向上と効率化業務をすすめています。JA担当者は出向く体制を基本として、営農支援システム(電子図書館)やスマートフォン等の情報ツールを活用して地域農業をサポートすることとしています。また、組合員の経営規模に応じたサポートをすすめます。

- ・栽培研修会、出荷目合わせ会などを通じて営農指導の充実をはかります
- ・農業電子図書館を活用した支店窓口相談機能の充実をはかります
- ・SNS、LINEを活用し若手農業者への生産情報の共有化をすすめます
- ・JA広報誌を活用した営農情報の発信を強化します
- ・良食味米協議会と連携した水稻栽培技術の充実をはかります
- ・地域農業再生協議会と連携して効率的な農地利用の情報共有をすすめます

# 有害鳥獣被害対策

イノシシやシカ、サルなどの有害鳥獣被害は年々増加しており、京都府統計での被害額は約2億円となっています。

被害は生産意欲の減退や荒廃農地の増加を招くなど中山間地域を中心に深刻な課題です。

JA京都ではJAグループ京都の一員として、有害鳥獣捕獲に取り組んでいます。

京都府 野生鳥獣による被害状況

	単位 ha			
	2017年	2018年	2019年	2020年
イノシシ	94	100	114	106
サル	9	9	8	7
シカ	76	89	90	73
計	179	198	212	186

	単位 万円			
	2017年	2018年	2019年	2020年
被害金額	20,836	22,222	22,748	20,859

京都府データより

有害鳥獣捕獲実績		【単位：頭】	
	許可捕獲実施期間	捕獲実績	
2018年度	2018.9.3～2018.11.14 (日吉支店管内10箇所)	ニホンジカ	イノシシ
		8	4
2019年度	2019.9.4～2019.11.14 (日吉支店管内13箇所)	ニホンジカ	イノシシ
		29	3
2020年度	2020.8.31～2020.11.13 (日吉支店管内15箇所)	ニホンジカ	イノシシ
		42	6
2021年度	2021.8.17～2021.11.14 (日吉支店管内15箇所)	ニホンジカ	イノシシ
		36	2

# 主な農畜産品目（1）

7

## <京野菜（全般）>

- ・京野菜ブランドとしての付加価値を高め、さらなる有利販売に努めます
- ・パイプハウスの導入による栽培基盤の拡充をはかります
- ・JAグループ京都「世界ブランド化プロジェクト」による  
京野菜ブランドの強化をはかります
- ・京都府特産物育成協議会「第2次京都府園芸農業ビジョン」と  
連携し重点推進品目の生産振興をすすめます
- ・地域特産物育成協議会と連携した生産者支援をはかります

## <丹波くり>

- ・生産量を安定させるための栽培技術研修会を開催します
- ・新植、改植の継続による園地台帳の更新と集荷量確保をはかります
- ・JA独自販売を強化して有利販売をすすめます
- ・関係機関と連携し産地維持方策の協議をすすめます

## <山椒>

- ・中山間地域を中心に高齢者や女性を対象に生産拡大をすすめます
- ・特産品と位置づけ栽培技術研修を実施します
- ・新植や改植をすすめる将来に向けた生産量の確保に取り組めます

## <水稲>

- ・事前契約取引の拡大により有利販売に努めます
- ・良食味米協議会と連携した栽培に取り組み特A獲得を目指します
- ・耐高温対策の技術確立、品種選定等に取り組めます
- ・マーケットインに基づく銘柄推奨と作期分散を提案します
- ・産地づくり交付金等を活用した農家所得の向上を推奨します
- ・海外の日本酒ブームによる輸出検討をすすめます

## <麦類>

- ・水稲⇒麦⇒豆類の2年3作体系をすすめる生産量の増大を目指します
- ・適地適作、排水対策を重点とした栽培指導に取り組めます

## <黒大豆 小豆>

- ・実需に応じて計画的な作付面積の確保に取り組めます
- ・天候に順応できる栽培技術の確立を目指します

## <加工業務用野菜>

- ・近年の需要の高まりを受けて新たな販売先の開拓をはかります
- ・国営農地の有効活用による生産拡大に取り組めます

# 主な農畜産品目（2）

8

## <小菊>

- ・ 需要期出荷が可能となる栽培技術の普及をはかります
- ・ 市場のニーズに応える新品種の導入を行います
- ・ 多様な販売先を確保し有利販売に努めます

## <ホオズキ・枝松>

- ・ 盆や正月に需要となる高収益作物として計画栽培をすすめます
- ・ 新規販売品目として栽培技術の考究と生産農家の育成をはかります

## <稲発酵素飼料用稲（WCS用稲）>

- ・ 耕種農家への生産拡大と畜産農家への利用促進をはかります
- ・ 水田活用直接支払交付金の活用により生産者所得を確保します
- ・ 耕畜連携により作付面積の拡大をはかります
- ・ 安定的需要作物と位置づけ作付誘導を行います

## <飼料用 青刈りとうもろこし>

- ・ 耕畜連携の新たな品目の取り組みをすすめます
- ・ 飼料高騰対策と転作品目として作付誘導を行います
- ・ 耕種農家や畜産農家と連携した作付誘導を行います

## <京たngo梨>

- ・ ブランド産品として輸出量の拡大をはかります
- ・ 栽培計画の策定により集荷数量の確保をはかります

## <果樹全般>

- ・ 異常気象に耐えうる栽培技術の考究をはかります
- ・ 研修会を開催し栽培技術の向上を促します
- ・ 拠点集荷の効率化をすすめ集荷数量の確保につとめます

## <畜産酪農>

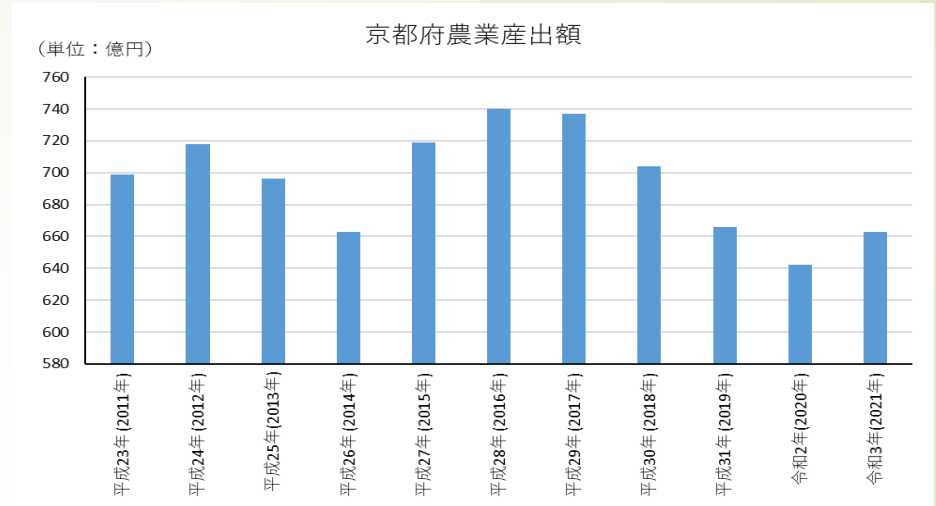
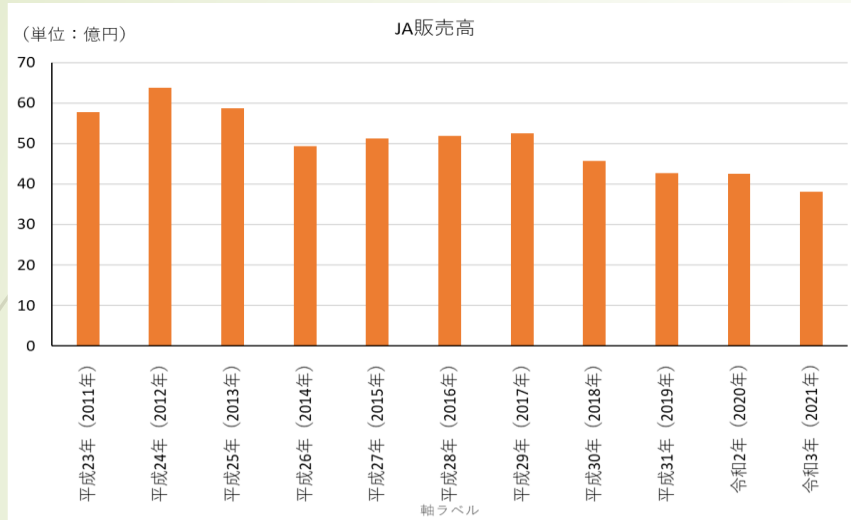
- ・ 自家育成や素牛導入による乳牛の更新支援を行います
- ・ 生乳の計画的生産をはかります
- ・ ポジティブリスト制度（農畜産物残留農薬規制）に対応した

「生乳生産管理チェックシート」の記帳とともに、  
記録飼養衛生基準の遵守徹底をはかります

- ・ 牛舎環境美化を研修等での啓発と事例共有による  
取り組みを強化します
- ・ 地域農業と連携した自給飼料の拡大をはかります
- ・ 効率的労働の事例共有をはかります
- ・ 実需の要望に応える京都府和牛子牛の生産拡大をはかります



# 耕作農地と生産販売高 (参考)



## 耕地面積の推移

単位 ha

	2017年	2018年	2019年
右京区(京北)	477	479	479
南丹市	2,720	2,720	2,710
京丹波町	1,650	1,630	1,600
亀岡市	2,760	2,750	2,740
福知山市	3,540	3,520	3,490
与謝野町	933	929	922
宮津市	743	727	721
伊根町	282	279	254
京丹後市	4,820	4,790	4,710
計	17,925	17,824	17,626

## 荒廃農地

単位 ha

	2017年	2018年	2019年
京都府全体	103	175	382

農林水産統計及び市行政データより

## 水田耕作面積の推移

JA京都は府内最大の米どころとして、年間31万袋以上の米を販売しています。(1袋/30Kg)

単位 ha

	2019年	2020年	2021年
右京区(京北)	262	253	253
南丹市	1,395	1,362	1,284
京丹波町	674	654	639
亀岡市	1,331	1,314	1,280
福知山市	730	721	713
与謝野町	676	680	680
宮津市	324	316	309
伊根町	106	106	105
京丹後市	2,582	2,584	2,573
計	8,080	7,990	7,836

市町行政及び農産データより